

佳作

秋桜

香川県 広瀬美咲

有名な俳優が亡くなったとか、どこかの新幹線が開通したとか、テレビで伝えられるどんな出来事よりも 5 歳の私にとって、大好きな祖父が亡くなったということが、何よりも大きな出来事だった。

それから私は、一度も祖母の涙を見たことがない。むしろ前より笑顔でいっぱいなのだ。いつも一緒にいた人が、いなくなって、もう二度と会うことができないというのに、悲しくはないのだろうか、疑問でいっぱいだった私はその答えを、祖父のお墓で見つけた。

「おじいさん、今年もおじいさんの好きなコスモスが咲きはじめましたよ。ほら、いつも散歩の時に通ってたコスモス畑の。今年も一緒に見られると思っていたんですけどね……。」

私は祖父のお墓の前で、誰にも聞こえないように声を殺して泣く祖母の姿を見てから、とにかく祖母が本当に笑っている顔が見たくて、かたもみ券を作ったり、祖母の似顔絵を描いたり、祖母が喜んでくれそうなことをたくさんした。しかしそれでも祖母は、皆の前、私の前では絶対に泣かず、誰もいない所で一人泣いていた。

数ヶ月が過ぎたある日、近くのホームセンターに母と買い物に行った。その時、黒いポットにぽつんと植えられたコスモスを見つけ、祖父の顔が思い浮かんだ。私はこれだ、と思いついて家に帰り、今まで貯めていた 10 円や 100 円玉をかき集めて、コスモスを買いに走った。前まで怪獣に見えていた店員さんもその時はヒーローに見えた。いつのまにか、一人で買物をすることが怖くなくなっていた。

たった 1 輪のコスモスだったけれど、祖母に渡した時、祖母は大きく目を開き私を抱きしめて、初めて大声で泣いた。

「ありがとう、本当にありがとうね。」

と言って……。